

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400540		
法人名	有限会社 恵成		
事業所名	グループホーム 蕤賓荘		
所在地	〒037-0514 青森県北津軽郡中泊町大字小泊字浜野61-1		
自己評価作成日	平成28年9月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「柔らかにお客様をもてなしやすらぎを与える」を基本理念として、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援します。地域に根ざしたグループホームを目指し、入居者もスタッフも地域に溶け込み、なじみの関係が構築できるように工夫しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は理念に基づき、入居者をもてなす心を念頭に職員の体制づくりが行われており、職員の処遇が入居者処遇に繋がるとの思いから、日頃から向上させるための努力が行われている。地域柄、入居者、家族、職員が顔見知りである為、家族のような関係性が築かれ、グループホームがアットホームな雰囲気であることから、誰もが訪問しやすい場所となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム名称の由来を独自の理念として捉え、地域の中でその人らしい生活を支援できるように、職員会議や、ミーティングで話しあい、実践につなげている。	「すい賓」(柔らかにお客様をもてなし、安らぎを与える)を理念に、地域でその人らしく、これまでの生活を継続して頂けるよう、常に職員間で話し合い実践に繋げている。地域の方言がきつく聞こえる場面では、理念に立ち返り言葉遣いに気を配っている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの存在が浸透し、個人、団体の方の慰問がある。慰問がある時は地域の方へ蕤賓荘見学も兼ねてもらおう目的で、チラシ等で周知している。団体からの依頼があり職員が踊り手として祭りに参加している。	地域の行事には積極的に参加しており、グループホームへの訪問や、地域の方々の訪問も積極的に受入しており、近所の農家から野菜の御裾分けなどもあり、誰もが訪問しやすい関係が構築されており、地域との交流が良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームに尋ねてきてもらったり、地域のイベントに参加、見学させたりしている。地域の方から相談を受けた場合は実践で積み上げた認知症の方に対する支援方法などアドバイスできるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、待機者、研修、行事などの状況を報告している。会議の中で出た意見やアドバイスを職員間で共有し、サービスの向上に活かすようにしている。	会議は2か月に1回開催しており、会議参加者とは災害時の対応などを協議するなどしている。グループホーム外の方の意見を聴ける機会となり、それを運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町村担当者からは、随時、密な情報を頂いている。又、町の地域ケア会議のメンバーに推進されたり、協力関係は築かれている。	運営推進会議のメンバーに行政職員に入ってもらっている。また、入居者の制度的処遇にも連携が図られており、運営等に関しての課題についてアドバイスを頂いている。冬期間の除雪に関しても相談できる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修などから身体拘束の知識を深め、鍵を掛けない工夫、身体拘束をしないケアを心がけている。	外部研修の受講や、内部研修による知識の向上を図っている。また、方針としてその人らしさを重視している為、身体拘束を行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修などから高齢者虐待の知識は十分身につけているが、なじみの関係性や地域柄乱暴な言葉遣いがあるため職員間で注意しあったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	必要時には、アドバイスできるように研修に参加している。又、包括支援センターとも連携をとりながら活用できるように支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて退所を含めた対応可能な点につき十分な説明を行い納得を得た上で契約している。又、改定時には、その都度説明し、同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱があるが、空の状態である。面会時に、意見や要望などを伺うように心がけている。それらの意見は運営推進会議や職員会議で報告し、話しあうようにしている。	家族の面会時や電話で伺う事が多く、頂いたご意見に関しては丁寧に説明している。また、これらを職員会議及び運営推進会議で報告し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う職員会議は、全職員が出席する体制作りをし、職員からの意見、要望、提案は全員で検討し、できうところは反映させている。	職員が意見等を出しやすい環境が整っており、出された意見等はその後検討され、有給休暇の取得についての意見に関しては、すぐに運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算を活用して基本給の引き上げ、夜勤手当の引き上げ、皆勤手当、賞与を設けた。職務、職責などの任用要件を定め、資格手当についても就業規則に明記した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップの為に年2回以上の外部研修の義務化。各自の力量を把握した上で、資格取得の研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム間で定期的に交流会を持ち意見交換をしている。又地域の主治医を中心とした連携会議で、他職種の方と連携を持って、相互間の活動を強化している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人、家族の不安、要望を十分に聞かせていただき、安心していただけるようなサービスの提供を行うことで、良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で家族の求めている事をサービスにつなげ、電話連絡やホーム便りで近況報告をして話しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応な困難な場合が発生したときは、本人家族の理解を得た上で他のサービス利用につなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所している方は人生の先輩であるという考えを職員は共有していて、支援する側、される側という意識はなく、本人から学んだり、癒されたりしていて、共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常に変化があれば連絡し、必要であれば、受診同行、美容院への同行などもお願いしている。又、家族に希望があれば遠方にいる家族にもホーム便りを送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人と顔を合わせる合わせるようなところ(町内行事など)には積極的に出かけるように支援している。ホーム行事などの時もなじみの人を家族を通じて誘ってもらうようお願いしている。	地域行事へ積極的に参加しており、馴染みの美容院等の利用や、グループホーム外でのパッチワークの趣味講座を継続して受講できるように支援するなど、入居者の馴染みの関係を継続できるように積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自の時間を尊重しながらも、お茶や食事の時間は全員で集うように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了時の面談、地域の集いで出会った時などに近況を伺い、折に触れ相談や、支援に応じる姿勢を示している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の暮らしができるように日々の言葉や動作、表情から意向を把握するようにしている。意思疎通が困難な方もいて、御家族から情報を得てミーティングなどで検討するようにしている。	日常的な場面で拾い上げた意向等は、各職員がセンター方式・24時間シートに落とし込み、思いや意向の把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅訪問で、本人、家族、関係者から聴き取るようにしている。聴き取った生活歴をご本人とのコミュニケーションを取る為の手法として全職員で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の暮らし方や生活リズムは排泄表、バイタル表などを活用してできる力を重視した全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の思い、意見を反映しながら、職員間で問題点を見出し、現状に即した介護計画作成に努めている。	職員間で入居者や家族のニーズを見出し、職員会議でカンファレンスを行っている。また、自立支援の視点を大切に、家族や本人の意向と自立支援のすり合わせがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務開始前の記録確認、職員間の連絡帳の確認は徹底するよう押印をして情報を共有し、体調管理で必要な時は、食事量、水分量を把握し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて面会時の送迎、家族の宿泊支援、本人の入浴日以外の入浴など柔軟におこなうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの防災協力委員の方々にも呼びかけて、消防署の指導を頂き、安全で安心な暮らしができるように防災訓練をおこなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族が希望するかかりつけ医となっている。入所前からの医療機関を継続している。必要時は、家族に同行をお願いする時もある。	入居後も本人、家族の希望に合うように支援をしている。また、定期受診の際もグループホームで支援し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の病院の看護師さんからは、受診時にアドバイスを頂いたり、月1回の連携会議で相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換の為に入院中も面会するように努めている。必要時は地域連携室や担当看護師と連絡を取るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでできる最大の支援を家族と検討し、方針を定め主治医と連携しながら支援していく。ホームで対応できない場合は、主治医の診断のもと他の医療機関につなげてもらう。	本人、家族の意向から医師、家族、職員が連携し、できる限り安心して、最期を迎えられる取り組みを行っている。また、町の医療・介護連携会議が毎月開催され、看取りについて話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法、心肺蘇生法講習、通報訓練を全職員が受講していて、あわてない対応ができ、実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、独自の津波想定訓練、水害訓練を行っている。火災訓練の際は運営推進委員、近隣の協力委員の方にも訓練に参加してもらっている。	地域住民が災害協力員として訓練に参加し、多様な災害時を想定した避難方法の確認などを行っており、地域の方との協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の力に応じて、声かけや対応を行っている。狭いホームの中でプライバシーを損ねるような対応にならない、雑な言葉掛けにならないように努力している。	入居者との会話は方言を使っているが、一人ひとりの尊厳を意識しながら、言葉掛けに気配りがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、入浴、外出などは個々の希望を聞き入れている。嫌いな食べ物は代替にしたりできる範囲で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や利用者の都合を優先する事もあるができる人には自分のペースで1日をすごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はハンガーラックにかけて、自由に選べるようにしている。入所前からの美容院さんに出張カットに来てもらっている人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、本人が食べたいと希望したら献立に加える、体調に合わせるなど柔軟な対応をしている。山菜の皮むき、野菜の皮むきなどを行っている。	魚、野菜、山菜など季節の食材を献立に取入れ、当日に持ち込まれる食材等も随時利用している。また、山菜の皮むきなど食事の準備を入居者が手伝うなど楽しみながらの食事が出来るよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は意識して関わっている。嚥下状態に応じてミキサー、刻み、とろみなどの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の力に応じて見守ったり、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自ら訴えられない方も、排泄パターンを把握してトイレでの排泄を促がしている。	排泄表にて排泄パターンを把握している。オムツ・パッドなどを長期間使用継続しないような排泄ケアを考えており、夜間のみオムツ使用している方もいるが可能な限りトイレでの排泄を勧めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、毎食後のリンゴ、乳製品は定時のおやつ、朝食前に提供し便秘に努めているが、下剤を処方してもらっている方もいて、状況に応じて下剤の調節をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ホームで決まっている個々の入浴日以外でも希望があれば、入浴してもらっている。	入浴は週2回としているが、希望があれば、その都度対応している。また、入浴実施日が週4日であることから入浴日の変更も可能としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促がす支援をしている。夜間は居室の室温や、寝具の状態、入眠状態の確認を行い安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容一覧を提示しているので、疑問がある時は確認している。誤薬事故がないようにチェック体制を強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできる事を見つけ、残存機能を活かしながら、自信につながるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、地域行事には、車椅子の方でも気兼ねなく出かけられるようにしている。散歩も取り入れ近隣を散策して支援している。	本人、家族の希望に沿った外出を気兼ねなく出来るよう支援している。また、急な外出にも対応できるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かっている人、自分で所持している人など本人家族の希望でさまざまだが、必要時には使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日の花、暑中お見舞い、年賀状、宅急便などが届いている。御礼のTELや、不穩になった時希望があった時はいつでも支援できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのたたみ敷きの場所に長いすを配置して座ったり、寝転がったり自由なスタイルで過ごしている。玄関を出ると畑があり、居室から畑の作物や花が見え、季節感や生活感を感じていただける	共用空間は、季節が感じられる空間づくりが行われている。毎年年頭には入居者全員で集合写真を撮り、グループホーム内に飾られている。これは開設時から実施されているもので、これまでの写真がすべて飾られており、思い出いっぱいの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには自然と人が集まり、各自で思い思いに居場所をきめている。食卓席は身体的なことを含め、その人の居心地の良い場所になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた生活スタイルにあわせ、使い慣れたものを持ち込んで使用している。ご主人の位牌をもちこんでいる方には、毎朝ご飯をお供えするなどの支援をして、居心地のよさに配慮している。	自宅で使用した使い慣れた物を居室に持参してもらい、居心地の良さに工夫や配慮がなされている。また、位牌を持参している方には、朝ご飯を供える支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人のできる事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り安全にすごしてもらうように工夫している。		